



PBA チャレンジ Challenge!!

2023 夏 一般財団法人
太平洋放送協会(PBA)

2023 夏期特別献金のお願ひ

すると見よ。男たちが、中風をわずらっている人を床に載せて運んで来た。
そして家の中に運び込み、イエスの前に置こうとした。

(ルカの福音書 5章18節)

放送伝道の働きのためにいつもお祈りいただき、
また献金をもってお支えいただいておりますこと、
心から御礼申し上げます。

まもなく暑い夏がやってきます。子どもたちにとっ
て久しぶりのキャンプの夏になるよう祈っています。

去る5月28日、PBA会長の堀肇先生が召天されま
した。堀先生は、公益法人法の改正によってPBAが
財団法人から一般財団法人に移行する難しい時期に、
団体運営の舵取りをしてくださいました。皆が右往
左往しているとき、理事長として先頭に立ってま
とめてくださったのが堀先生です。本当に大変だった
と思います。

堀先生の著書で印象に残っているエッセイがあり
ます。「木は空という背景があるから、意味がある」
という、ちょっと哲学的な一文です。堀先生はよく
絵を描かれました。描かれた木が生きるのは、背景
となる空があるから、イメージが広がっていきます。

私は、教会学校のクリスマスの劇でいつも「その
他大勢」役でした。聖誕の場面ではゾロゾロ出てく

る羊飼いの一人とか、ダニエルの物語では吠えまく
るライオンとか。堀先生はそこにこそ豊かな意味が
あると励ましてくださいます。背景として埋もれそ
うでありながら、実は絵全体を際立たせているかけ
がえのない役割です。そういうことだったのだと納
得しました。

同じように、放送伝道の働きも全国各地で支えて
くださる皆様の、尊いお祈りと支えがあって、何十
年もの間、活かされ用いられてきました。

冒頭のみことばは、男たちが中風の人を連れてき
て、今まさに主のみ前に置こうとしている場面です。
彼らもまた背景となる尊い働きを成し遂げたのです。

私たちPBAもまた、背景の役割をこれからも担わ
せていただきたいと願っています。

ぜひPBAの働きを覚えて、今年もお献げいただけ
ましたら感謝です。

太平洋放送協会 理事長

矢木良雄



私が32年間見続け、 応援しているテレビ番組



日本福音キリスト教会連合
北広島福音キリスト教会 教会員

こみどう さとし
込堂 賢

それは、HBCテレビで放送されている「ライフ・ライン」です。この番組はHBCで30年以上放送されている長寿番組ベスト3に入ります。1位「皇室アルバム」、2位「世界ふしぎ発見！」に次ぐ番組なのです。

32年前。当時私は、広告会社に勤務し各放送局との媒体交渉をする企画制作業務の仕事をしていました。その時に、北海道福音放送協会の近藤綾子主事から相談を受けました。それは、PBA（太平洋放送協会）から北海道地区で「ライフ・ライン」を放送したいが、放送局から「宗教番組は放送できない」と断られた、とのこと。そんな訳で「何とか放送できる方法はないものか……」との内容でした。

そこで私は、HBCテレビ営業部のS氏（後の常務）に交渉したところ可能性が示されました。その方法とは、地元で実績のある広告代理店からスポンサーを付けての持ち込み番組（詳細略）とすることでした。それ以来、PBAとHBCテレビを結ぶ役割をさせていただいています。

また、ある期間、北海道福音放送協会の信徒理事を務め、さまざまなことを経験しました。何度も放送局に支払う献金が足りなく、放送休止を考えるピンチがありました。しかし、その度に予期しない多額の献金が与えられてきたのです。

これは、「主がお入り用なのです」と示している番組に思えてなりません。S宣教師が夏休み旅行中、利尻礼文島で「ライフ・ライン」を見て感動した話も忘れられません。広大な北海道だからこそ、福音放送は必要というのです。

今後ますます高齢化、過疎化が進み、教会の統廃合や教会が無い市町村が増えることでしょう。だからこそ、福音放送の継続が必要なのです。継続のためには、ファイターズやコンサドーレ札幌、レバンガ北海道などを応援するようにサポーターが欠かせません。

あなたの教会で「ライフ・ライン」で放送された番組内容が話題になっていますか。

「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。」
(テモテへの手紙 第二4章2節)

恵みと結実～2022年度を振り返って～

- 番組宛に届いた応募やお手紙 ……10,072通
(うち、初めてという方は1,431名でした)
- 受洗もしくは救いの知らせ ……7名
- 新たに聖書の学びを始められた方 ……142名
- お近くの教会を紹介した方 ……49名



すべての必要が満たされるために 祈りお献げください



■スタッフの日々の働きのために……400万円

わずか15名のフルタイムスタッフと6名の協力スタッフによって、全国のラジオ・テレビの番組制作をはじめ事務局の働きを担っています。スタッフ一人ひとりの働きと、スタッフの家族の生活のために祈りお献げいただけましたら幸いです。

■将来を担うスタッフのために ……100万円

皆様によるお祈りとお献げものによって、将来を担う20～30代のスタッフ5名が活躍しています。これらのスタッフが安心して働きに専念することができるように、労働環境の整備や財政赤字の回復を願っています。

■全国各地の支援活動費として ……100万円

数年ぶりに全国各地で「つどい」が開催されています。全国各地の諸教会によって進められている放送伝道の働きが用いられるために、必要な協力や奉仕をさせていただきたいと願っています。



日々活躍している20～30代のスタッフたち



PBA スタッフの証し

主ご自身が用いておられる



宣教協力運営部
後藤みなと
(2023年入会)

4月に入会して、早いもので3か月が経ちました。皆様の尊いお祈りとご支援によってPBAの働きに加えられたこと、心より御礼申し上げます。

PBAでは毎日様々な方からお電話をいただきます。ある日のこと、入院している方から「聖書を読みたくなったので、どこに売っているか教えてほしい」といったお問い合わせをいただきました。その他にも「聖書通信講座を受けてみたいので申し込み方法を教えてほしい」といったお問い合わせをいただくこともあります。

放送による伝道は、番組をご覧になっている方々に直接お会いすることができません。しかし、日々の働きを通して、確かに福音が届けられているということ、そして、放送伝道の働きを主ご自身が用いておられるということを実感し、嬉しく思っております。

72年前、志をもって放送伝道の働きを始められた宣教師と、その志を受け継いだ諸教会の尊いお働きに倣って、私自身も日々みことばに拠り頼み、感謝と喜びをもって励んでまいりたいと思います。

「ですから、信仰は聞くことから始まります。聞くことは、キリストについてのことばを通して実現するのです。」ローマ人への手紙 10章17節

お礼のことば



太平洋放送協会 常務理事

大井 満

いつもPBAのために、祈っていただき、支援していただいていることを、心から感謝いたします。

このたび6月の改選により常務理事を拝命いたしました。どうぞよろしく願いいたします。

PBAは放送伝道に特化した伝道団体ですが、その働きは、人と人、神様と人、そして教会と教会をつなぐネットワークの中でなされていきます。このためにスタッフは感謝と喜びをもって働いています。

2年前の夏、新幹線で移動していたある日、私の携帯に知らない番号から着信がありました。恐る恐る出てみると、「大井君、覚えてるかな。大学で一緒だったHだよ。教会に置いてあったPBAの印刷物（『PBA On-Air』）に大井君らしき名前があったので、懐かしくて電話してるんだよ」という、大学卒業以来42年ぶりの、聞き覚えのある話し方の、まさにH君でした。

長いトンネルを通過するたびに途切れ途切れになる通話でしたが、PBAの印刷物が、懐かしい友達とつないでくれました。彼は、教会名を頼りにインターネットで電話番号を探して、教会に電話をかけ、それがわたしの携帯に転送されてきたのです。

これは私の小さな経験に過ぎませんが、PBAにはこのようなストーリーがたくさんあります。私たちPBAとスタッフ一同は、いなくなった一匹の羊を探しに来てくださったイエス様の働きを担う諸教会を、これからも放送伝道でお手伝いしていきたいと願っています。PBAを取り巻く経済的環境は決して楽観できる状態ではありませんが、すべてを満たしてくださる神さまを信頼して歩んでいきますから、これからもご支援をよろしく願いいたします。

神さまの恵みと祝福が、皆様がたお一人ひとりと共にありますように。心からの感謝を込めて。

2022年度 会計報告

昨年度も、尊いお祈りとご支援をありがとうございました。長引くコロナの影響もあり、献金収入はやや減少しました。一方、新たなスタッフの採用や運営費増により支出はやや増加しましたので、収支差額は791万円の赤字（最終損益は1,153万円）となりました。

WEBから簡単に献金ができますので、どうぞご利用ください。
(Paypal・クレジットカード)

www.pba-net.com/partner



〈2022年度 収支概要〉

(税込)

単位：千円

収入	PBA維持献金等	36,466
	PBA特別献金	12,899
	各地放送伝道協力会献金	110,772
	災害(被災)地放送継続支援献金	3,104
	字幕指定献金	294
	放送事業収入	144,093
	収入合計	307,628
支出	人件費	76,517
	電波料	182,560
	制作編集費等	9,125
	建物管理費・地代・修繕積立金・水道光熱費等	11,427
	減価償却費	3,781
	被災地放送継続支援	3,000
	事業運営費	18,283
	租税公課（支払消費税、固定資産税等）	5,696
	利用料（ソフトウェア、WEBサービス）・振込手数料	4,336
	その他費用	86
支出合計	314,811	
法人税・住民税及び事業税	735	
※収支差額	-7,918	

※それぞれの必要のために、さらに以下を繰入れました。

聖書チャンネルBRIDGE基金	200
放送伝道支援基金	14
被災放送継続支援基金	3,104
字幕指定基金	294

2022年度 最終損益

-11,530

